

みなさんおはようございます。早いもので2025年が終わろうとしています。

ちょうど今はクリスマスシーズンで、街やお店などにはクリスマスのデコレーションがありますし、夜にはイルミネーションが輝いたりもします。さて皆さんはクリスマスツリーの起源について考えたことはあるでしょうか。

いろいろな説があるのですが、一説によるとエストニア、ラトビア、リトアニアのバルト三国の中央部にあるラトビアの首都リガがクリスマスツリーの発祥の地で、1510年に「ブラックヘッズ」とよばれる商人たちが1本の木を街に持ち込み、飾りを付け、その後燃やしたのが始まりだと言われています。

このラトビアという国ですが、第二次世界大戦後、ソビエト連邦共和国いわゆる「ソ連」の一部となり、1990年に独立しました。この独立にあたって前年の夏、バルト3国のエストニア、ラトビア、リトアニアの人々約200万人が自由を求めて立ち上がり、国境を越えて手をつないで暴力的でないデモをしました。距離は600キロに及んだそうですが、その人と人がつないだデモを「人間の鎖」といいます。ラトビアで使われている言語はラトビア語で、ソ連時代にロシア人が多く移住するようになったのでロシア語を話す人も多いのですが、国は公用語としてラトビア語をずっと守ってきました。そして、ラトビアは国の独立を契機に新しい国立図書館を建設し、独立から20年後にようやく完成しました。古いソ連時代の図書館と新しく完成した図書館は約2キロ離れているのですが、冬の夜、零下15度の中、市民1万4,000人が400万冊の蔵書のうちの2,000冊を人から人へと渡して本の引っ越しを行いました。このイベントはかつての「人間の鎖」の連想から「Chain of Booklovers（本を愛する人の鎖）」といわれます。私も以前その新しい図書館に行きましたが、素敵な建物です。

言語を守ることは文化を守ること、民族の歴史を守ることに繋がります。図書館はその象徴ともいえます。今日の校長からの話は「図書館を大事にしましょう、文化を守りましょう」という話かなと思うかもしれませんが、物事には何事も別の側面があります。

ラトビアや今戦争しているウクライナ（ここもウクライナ語が国の言語ですが、ロシア語を使う人が多いです）で、ロシア語への圧力が強まっています。たとえば、ラトビアの国会はロシア語を話す議員に対して、ラトビア語の語学試験を受けるよう命じて、もし能力がなければ議員の資格をはく奪する可能性があるとしています。ウクライナの憲法では公用語はウクライナ語ですが、ロシア語を使う住民が多く住む地域では、ロシア語を第2公用語としてよいという法律があったのですが2018年に廃止されました。これはウクライナとロシアと戦争が起こる前のことです。

現代の日本で暮らしていると、感じにくいかもしれませんが、日本の歴史を振り返ればどうでしょうか。

2・3年生は台湾に修学旅行で台湾行ったときに日本語を使う現地の人が多かったり、日本文化の名残りがそこそこに見ることができたりと、感じたのではないのでしょうか。台湾を日本が統治していた時代には、学校で台湾の人に日本語教育が行われていました。1年生は来年台湾に行くにあたっていろいろ調べてみてください。

そして、物事には何事に側面があること、一面的にものを見て判断するのではなく、多面的に物事をとらえてほしいと思います。物事は簡単ではなく複雑なものなのです。クリスマスツリーからずいぶん離れてしまいましたが、皆さんはこれから、変化の大きい社会を生きていかねばなりません。これまでの常識や慣習では対応できない課題に、一人ひとりが立ち向かわねばなりません。そのためにも、あふれている情報に偏りがいないか、正しく取捨選択し、一方的にではなく多面的に物事をとらえて、自分の頭でよく考える習慣をつけてください。

そして、3年生の皆さんは受験のラストスパートですね。ひょっとして、あれもできていない、これもできていないと悩んでいる人はいませんか。それは、学習が進んできてあるいは深まってきて「わかったこと」「できること」が増えてきたからこそ、できていない部分が明確になってきたということです。そんな時は自分を客観的に、見つめることをお勧めします。受験に対する自分を多面的にとらえてみてはどうでしょうか。どうしてもできないことばかり気になるけれど、できていることに目を向けると、気分が変わるものです。

では皆さん、体調には十分気を付けて、明日からの冬休み、それぞれの目標に向けて充実した楽しいお休みとしてください。以上で私からの式辞を終わります。